

小集団討論場面の相互行為にみる「司

会者」の役割化

徳井厚子

一 はじめに

「討論」や「会議」はわれわれにとって日常的な会話の場面であるが、この討論という会話場面ではなくてはならないのが司会者の役割である。では、この「司会者」としての役割はどのように決定するのであろうか。

小論では、小集団討論場面において、特にメタ発話に注目し、「司会者」という役割が相互行為を通じてどのように決定していくかを、相互行為分析をもとに考察するものである。なお、メタ発話については、西條（一九九九）の定義等があるが（注一）、本稿では、「会話の進行に関する発話」として定義する。

徳井、趙（二〇〇七）は、日中小集団討論場面の対照研究を行なっているが、この中で、日本人の小集団討論場

面の特徴として、（一）人間関係重視の発話が多い。（二）意見として資格を与えるメタ発話が多い。（三）場を盛り上げ笑いを引き出すメタ発話が多い。（四）脱線を指摘しずれを戻すメタ発話が共同でなされる場合が多いことを挙げている。特に場を盛り上げるメタ発話が中国人の討論場面には全く見られなかったのに対し、日本人の討論場面には多く見られたのが特徴的であった。さらにメタ発話を中心に考察を進める必要がある。

本研究では、日本人の討論場面の中で進行役を果たすとされる「司会者の役割」に注目し、実際の討論場面の中で、メンバー同士のやり取りの中で「司会者の役割」がどのように立ち上がっていくかについて考察を行なう。なお、ここでは西條の相互行為分析の立場に立ち、会話の相互行為に焦点を当てるものとする。

西條（一九九七）は、相互行為分析という手法について、次のように述べている。

ある相互行為の秩序が、相互行為の具体的進行のなかで、またその具体的進行を通してその時々々の相互行為上の偶然的条件に依存しながら、いかに組織化されているか、を記述していこうと思う。△略▽もろもろの事例をつらぬき、背後に潜む共通の特性もしくは一般的性質を

見つけ出すことにたいして無関心である。あくまでも、個々の事例のなかで何がどのようにおこなわれ、成し遂げられているかが記述されるのだ。(西阪 三五―三六ページ)

本研究では、西阪のこの視点に立ち、小集団討論場面において「司会者であること」が相互行為を通してどのように成し遂げられているかに着目するものである。

二 調査方法

本研究で考察する小集団討論場面は、大学生4名(男性2名、女性2名)のグループで、「よい授業とはどんな授業か」について討論を行なったものである。メンバーは既知のメンバーで構成され、討論時間は十分間である。司会者は最初から決めずに始めてもらった。収集した十組のデータの分析を以下で行なう。それぞれのグループごとに、メンバーをア、イ、ウ、エとしている。

三 分析

会話場面を考察した結果、以下が観察された。

1 他者との相互行為によって司会者としての役割を担

うケース

他者との相互行為によって司会者としての役割を担うケースが見られた。

グループ1

- 1 イ ジャアさんまとめとして
- 2 ア え?まだでしょ?
- 3 イ もうすぐじゃん
- 4 ア え うそ
- 5 ウ あと2、3分あるよ
- 6 ア え?まじで?はやーい
- 7 イ まとめとして
- 8 ア え?どうやってまとめようかな
- 9 イ まだまだまだ
- 10 ア え?まとめ?だから とりあえず グループ
デイスカッションがこう授業の中に盛り込まれ
ていて雰囲気自体もこうしゃべりやすいとか
- 11 イ ああ
- 12 ア 生徒が発言しやすいような雰囲気をもた教師
もね こうね つくっていかねければならない

ここでは、イさんがアの司会進行を促す「間接的司会

者」の役割を果たしている。アが「ではまとめましょう。」と直接切り出すのではなく、1でイが「じゃアさんまとめとして」と発話し、アにまとめという司会者的役割をすることを促している。しかし、ここでアはすぐにイの期待を受け入れず、2で「え？まだでしょ？」と発話し、まとめの役割を担おうとしない。その後、ウも交えたやりとりの中で「まとめ」の役割を担うかどうかのかけひきをし、7でイが「まとめとして」とアさんに代替しての発話をあえてすることにより、アにまとめをすることを促し、ここで初めて8でアは「え？どうやってまとめようかな？」と発話し、初めて「まとめる」司会者的役割を受容することになる。そして、10と12でアはまとめ始め、司会者としての役割を担う発話をしている。このように、イのような間接的な司会者的役割をするメンバーとの相互行為を通してアが「司会者」としての役割を担うようになる。ア自身は積極的に自ら司会者としての役割を獲得せず、他者であるイとの相互行為によって次第に司会者としての役割を担うようになる。あくまでアの司会者的役割の位置づけはアとイの共同の相互作用によって成し遂げられているということがわかる。

2 他者の意見に資格を与えることによって司会者の役

割を担うケース

他者の意見に資格を与えるという発話をするによって、司会者としての役割を担うようになるケースも見られた。

グループ3

1 ウ 面白いかつ何かしらそこから得ることがあれば

2 ア そういうことらしいです。

笑い

沈黙

グループ3

3 ア どうですエさん

4 エ わからなかった 笑い

5 ア 興味が持てる授業ってことでしょ ひとまとめ

にしちやうと

6 イ うんうん

7 ア ということらしいです

沈黙

ここでは、司会者が「そういうことらしいです」等と発言することで、他者の発言に対して意見としての資格

を与える発言をすることによって、司会者の役割を担っている。例えば、2では、ウの発言に対して、アが「そういうことらしいです」と発言することによって、ウの発言に対して、ただのつぶやきとするのではなく、その場における「意見」としての資格を与えている。7のアの「ということらしいです」という発言は、伝聞のスタイルをとっているが、これも他者の発言に資格を与える役割を果たしている。このように資格を与える発言をすることによって、アは司会者としての役割を獲得している。

3 意見を聞く形で司会者の役割を担うケース

意見を聞くという形の発言によって司会者の役割を担うケースも見られた。

グループ3

1 ア じゃ 最終的に自分らが出した答えは、興味を持って、かつえーっと先生の授業が一方的でなく生徒の心であたためられるような内容で学べることも多々あるそんな授業ということでまとめちゃっても大丈夫ですか？
2 イ ウ エ いいです。

アは、「まとめます」と断定的に述べるのではなく、「まとめちゃっても大丈夫ですか？」とメンバーにたずねるという行為をし、メンバーの同意を得ることで、まとめ司会者としての役割を担うようになる。最初から「まとめ司会者の役割」が固定的に決まっているのではなく、メンバーにまとめめる役割をしてよいかどうかたずねるといふ相互行為を経ることによって、メンバーと「共同で」アが司会者という役割になるといふことを達成している。

4 評価することによって司会者の役割を獲得するケース

メンバーの発言に対して評価する発言をすることにより、司会者としての役割を獲得しているケースもみられた。

グループ4

1 イ ぼくは小学校4年だったか5年だったかの理科の授業なんだけど・・・
(中略)
やっぱああいう授業がいいのかなっていうふうには思っている

2 ア いい話だね

イの発話に対してアが「いい話だね」と評価する発言をすることにより、司会者としての評価する役割を担っている。

5 司会者の役割への期待と葛藤

司会者の役割を他者から期待され、それに対して葛藤している場面も見られた。

グループ4

1 イ 最終的にまとめるの？司会

2 アまとめ？じゃ逆に悪い授業考えてみよう

3 イウ いいね

4 ア なんだろう 一方通行とかさ

イは1で「最終的にまとめるの？司会」と発言し、「まとめ」としての司会者の役割を果たすことをアに期待する発言をしている。しかし、2でアはイの期待に反してまとめに入らず別の話題を投げかけ、イとウはそれに応じている。ここでの相互行為からは、「まとめをする」という司会者の役割を他者から期待されているが、期待通

りに「まとめをする」役割を担わず、「まとめない方向で話を拡散させていく」方向に話を進める役割へと展開させている。このように期待する役割に対してのコンフリクトが起きている。

グループ4

1 イ だからどこでやらせてどこで何やってとか全部決めて

笑い

沈黙

2 ア だからね いい授業とはどんな授業か

3 イ まとめてみ

4 ウ 笑い

5 ア いい授業とはなんだろう

6 イ まとめ入っていいのもう？

7 ア いいよ

アは、1で話題がそれたのを、2でもとに戻す役割をすることによって司会者の役割を果たしている。その後3でイがアに対して「まとめてみ」と言ってまとめる役割を促す。ここではアは、「いい授業とは何だろう」とデイスカッションの課題を述べ、まとめに入ろうとする。

すると今度はイが「まじめに入っているのいいのう？」と今度はアに対してゆさぶりをかけている。アはそこで「いいよ」と承認することによって、司会者としての役割を獲得している。このようにメンバーと様々なやりとりをしながら相互行為を通じてア自身が司会者としての役割を獲得していく様子が観察される。

6 複数のメンバーで司会者の役割を促すケース

複数のメンバーで司会者の役割を促すケースもみられた。

グループ5

1 ア まじめじゃないかな、もう

2 ウ いいね早いね

3 エ 司会者の意見は？

4 ウ そうだねここで

5 ア いやあ おれは そうですねえ みんなで参加できる授業

ここでは、3でエが「司会者の意見は？」と言ってアに司会者の役割を促している。さらに続いて4でウが「そうだねここで」と発言することによってさらにエの発言をフォローし、司会者の役割を促している。この後5で

応答しアが司会者自身の意見を述べ、司会者の役割を果たしている。メンバーとの相互作用によってアが司会者という役割を担うプロセスがうかがわれる。

まとめ

以上、本稿では、メタ発話に注目し、小集団討論場面の相互行為において司会者の役割がどのように立ち上がっていかかということのみてきた。

その結果、他者との相互行為によって司会者としての役割を担うケースや他者の意見に資格を与えることによって司会者の役割を担うケース、意見を聞く形で司会者の役割を担うケース、評価することによって司会者の役割を獲得するケースがみられた。また司会者の役割への期待と葛藤のケースや複数のメンバーで司会者の役割を促すケースもみられた。

司会者の役割は、最初から固定されているわけではなく、メンバーとの様々な相互行為を通じて、「司会者となる」ということが共同で達成されるということがわかった。メンバーの期待通りに「司会者となる」ことが達成できた場合もあるが、中には、必ずしもメンバーの期待通りに円滑に司会者の役割が決定している場合だけでは限らないこともわかった。コミュニケーションは動的で

ダイナミックなプロセスである。このプロセスを通じて時にはゆさぶりをかけたり様々な相互行為が複雑になされながら、司会者の役割が決まってくということができる。今後さらに引き続き司会者の役割化に至る相互行為のプロセスを考察していきたい。

注

注一 西條は、メタ言語について「談話において、自分あるいは他者の言ったこと、これから言うことに言及する表現」としている。

参考文献

久米昭元 徳井厚子 徐一平(二〇〇〇)「コミュニケーシ
ョン様式の日米中比較—小集団討論の質的分析を通して—」『先端的言語理論の構築とその多角的な実証』平成一
一年度 COE 形成基礎研究費成果報告(代表井上和子)
神田外語大学

西條美紀(一九九九)『談話におけるメタ発話の役割』
風間書房

徳井厚子 趙剛(二〇〇七)「日中小集団討論場面にお
けるメタ発話」中日理論言語学フォーラム(北京大学)
徳井厚子(二〇〇二)「小集団討論場面における話題移行

の影響要因—なぜ日本人の討論が雑談になるといわれるのか—」異文化間教育一六号

西阪仰(一九九七)『相互行為分析という視点』金子書房
Watanabe, Suwako, 1993, "Cultural differences in framing. American and Japanese discussions." In Tannen, Deborah(ed.), *Framing in Discourse*. Oxford.

(とくいあ) 信州大学教育学部准教授